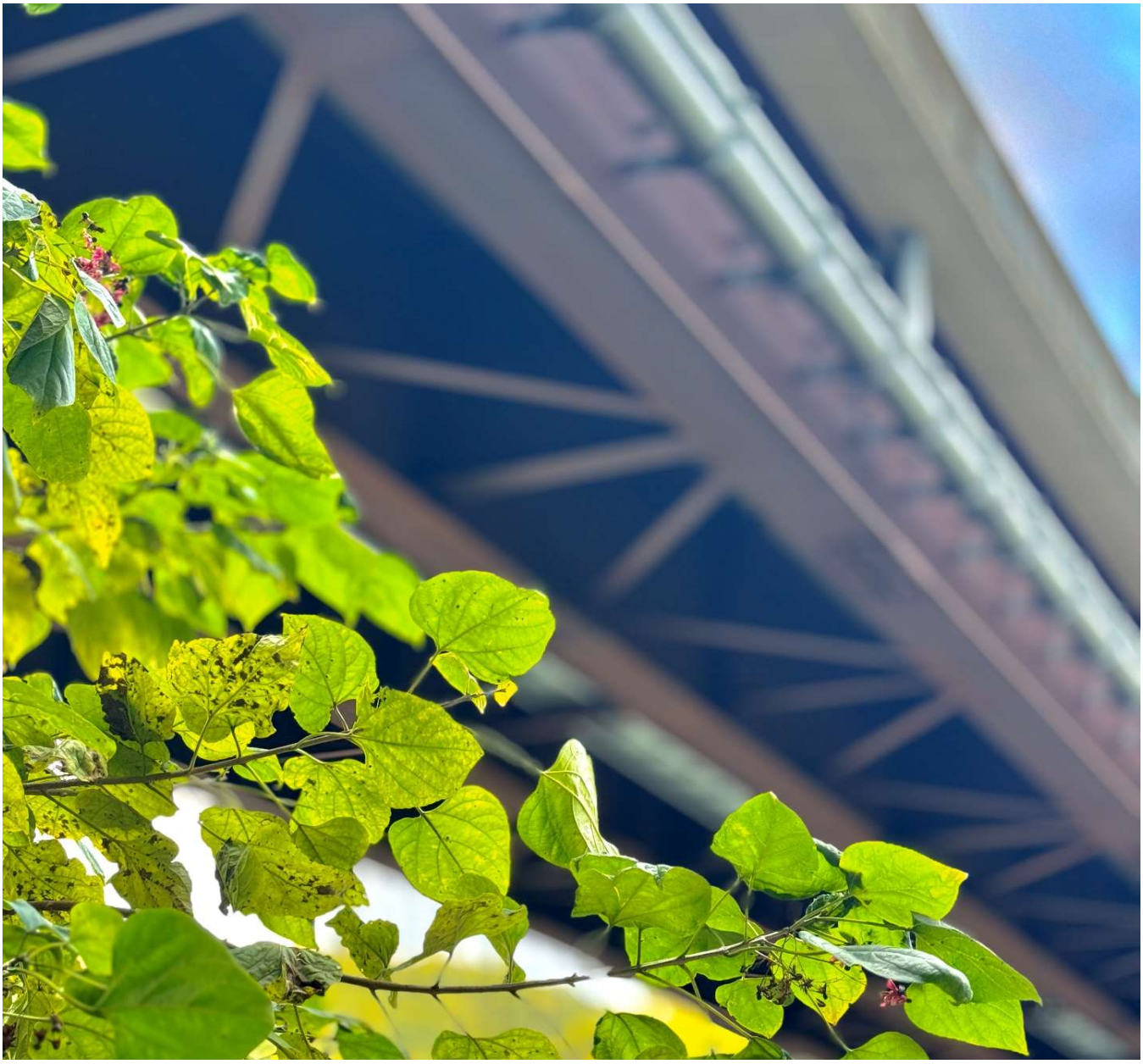
エコアクション21
環境経営REPORT

（活動期間　2023年8月1日 ～ 2023年10月31日）



株式会社 アルス製作所

（発行日　2023年11月15日）

（次回 2024年6月 発行予定）

CONTENTS

環境経営方針 2

会社概要 3

実施体制 4

環境経営目標及び実績 5

環境経営計画の取組結果と評価 8

環境関連法規等の取りまとめ及び遵守状況 13

代表者による全体評価と見直し指示 14

その他、会社の取組事例紹介 16

環境経営方針

【基本理念】

株式会社アルス製作所は、鋼橋等の建設用金属製品の製造及び施工等の事業活動を行うに当たり、高品質を追求し、社会から高く評価される完成品を提供するための企業努力に励み、社会に貢献することを目指しています。
また、当社の事業活動が地球環境に与える影響の重大さを認識し、全組織を挙げて環境負荷の低減に努めます。

【行動指針】

当社は、事業活動とその製品が地球環境に与える環境負荷を低減するため、以下の方針に基づいて環境に配慮した活動に取り組みます。

1. 循環型社会形成していくため、3R：Reduce(廃棄物の発生抑制)・Reuse(再使用)・Recycle(再資源化)に積極的に取り組み,以下の項目を重点テーマとして環境負荷の低減に努めます。

   1) 二酸化炭素排出量（電気使用量、ガソリンなど石油系燃料使用量）の削減
   2) 水資源使用量の削減
   3) 廃棄物の削減及びリサイクルの推進
   4) 化学物質の適正管理
   5) 環境配慮施工の推進

2. 5Sへの取組みを通して、作業空間の美化と改善に取り組み、社員が生き生きと働ける職場環境の整備に取り組みます。

3. エコアクション21の取り組みを通じて、環境経営の継続的改善を実施します。

4. 当社の事業活動に適用される環境関連法規等を遵守します。

5. 一人ひとりが環境負荷低減活動を自主的・積極的に実践できるよう、この環境経営方針を全従業員に周知するとともに、環境経営レポートを社外に公表し、地域社会とのコミュニケーションを図ります。

上記の方針達成のため、環境経営目標を設定し、また定期的な見直しを行い、目標達成に向けて環境経営システムを推進します。

制定日：2023年7月4日

株式会社アルス製作所
代表取締役　坂本　孝

会社概要

名称及び代表者名

株式会社 アルス製作所

代表取締役社長　　坂本　孝

所在地

本社　　〒773-0007　徳島県小松島市金磯町8番90号

名古屋営業所　　〒462-0818　愛知県名古屋市北区彩紅橋通1丁目1番5号ネオハイツ平安ビル305号

近畿営業所　　〒630-8042　奈良県奈良市西ノ京町1番地の34

中国営業所　　〒703-8282　岡山県岡山市中区平井6丁目20番地37号

香川営業所　　〒761-2203　香川県綾歌郡綾川町山田上甲1652

環境管理責任者及び担当者連絡先

責任者　　総務部長　　担当者　　総務部、工務部、工事部　各部員

TEL.　0885-32-8220　　FAX.　0885-32-7752　　E-Mail.　soumu1@arsbridge.com

事業内容

鋼構造物工事業　　許可番号　国土交通大臣許可（般・特-04）第002175号

事業規模

工事件数　　6 件（2023年8～10月）　売上高　　144,552.87 万円（2022年度）

18 件（2022年度）　総生産量　　738 ㌧（2022年度）

	本社（事務所）	工場
従業員	59名	
延べ床面積	777㎡	20,310㎡

2023年8月1日現在

事業年度

4月1日～翌年3月31日

認証・登録の対象組織・活動

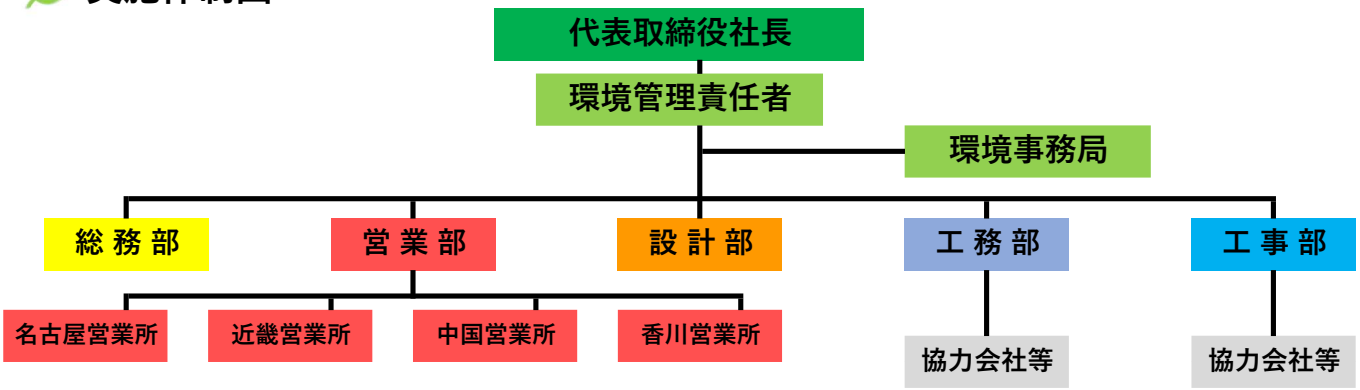
登録組織名　株式会社 アルス製作所

対象事業所　本社工場・名古屋営業所・近畿営業所・中国営業所・香川営業所

活動　　鋼構造物工事業

実施体制

実施体制図



関係者の権限と役割

代表取締役社長

- 環境経営に関する統括責任
- 経営における課題とチャンスの整理・明確化
- 環境経営システム実施に必要な人材、設備、費用などの準備
- 環境管理責任者の任命
- 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員への周知
- 環境経営目標・環境経営計画書の承認
- 代表者による全体の評価と見直しの実施
- 環境経営レポートの承認

環境事務責任者

- 環境経営システムの構築、実施、管理
- 環境経営目標・環境経営計画書の確認
- 環境関連法規・条例等のとりまとめ一覧表の承認、一覧表に基づく遵守確認結果の承認
- 環境経営レポートの確認
- 環境活動の取組結果を代表者へ報告
- 教育訓練（緊急事態を含む）の実施を指示
- 是正・予防処置の決定・指示

環境事務局

- 環境管理責任者の補佐
- 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施
- 環境経営目標、環境経営計画書原案の作成
- 環境活動の実績集計 環境関連法規・条例等のとりまとめ一覧表の作成
- 環境関連法規・条例等のとりまとめ一覧表に基づく順守確認の実施
- 環境関連の外部コミュニケーションの窓口
- 環境経営レポートの作成、公開（事務所備付けと地域事務局への送付）

各部署の部長

- 教育訓練の実施
- 環境経営計画の実施及び達成状況の報告
- 文書の作成
- 問題点の発見及び是正・予防処置の実施

全従業員

- 環境経営方針の理解と環境活動への取組みの重要性を認識
- 規則を順守し、自主的・積極的に環境活動へ参加

環境経営目標及び実績

中長期の環境経営目標

2022年度を基準とし、のち3年間の目標削減率になります。

項目		単位	2022年度	2023年度	2023年度 ('23年8月～'24年3月)	2024年度	2025年度
			【基準年度実績】	目標値	【目標削減率】 (-1%)	【目標削減率】 (-2%)	【目標削減率】 (-3%)
二酸化炭素総排出量		(kg-CO_2)	352,274	349,170	228,041	345,229	341,706
	電力	使用量(kWh)	564,066	560,499	353,226	552,785	547,144
	ガソリン	使用量(L)	8,277	8,217	5,917	8,111	8,029
	軽油	使用量(L)	4,935	4,892	4,314	4,836	4,787
	灯油	使用量(L)	4,755	4,711	4,416	4,660	4,612
	LPG	使用量(kg)	3,024	3,006	1,824	2,964	2,933
産廃排出量		(kg)	286,028	284,784	123,127	280,307	277,447
水使用量			2,844	2,827	1,700	2,787	2,759
化学物質			–	適正管理の実施	適正管理の実施	適正管理の実施	適正管理の実施
環境配慮施行の推進			–	環境配慮施工の実施	環境配慮施工の実施	環境配慮施工の実施	環境配慮施工の実施

【備考】

1.排出係数については、主の四国電力は、2021年度実績の0.532kg－CO_2/kWh、
その他の中部電力ミライズ、北陸電力、関西電力、中国電力は、2020年度実績を用いている。

2.化学物質はSDSで確認し、使用があれば適正に管理する。

3.環境配慮施工の推進は設備や器具の変更などの要因で結果的に電気効率を良くしたり、
ソフトウェアを駆使した製作で鉄板の発注枚数や残材の削減を行い、環境に配慮したことを判断基準とする。

4.「2023年度の目標値」は、2022年度の実績を基準値とし、EA21の活動開始前の2023年4月～７月は削減なし、
活動期間の2023年8月～2024年3月は削減率1％として算定したもの。
このため、削減率は項目により異なり、0.4％～0.9％程度となっている。

環境経営目標及び実績

期間中の環境経営目標と実績・評価

比較期間 ［2022年8月～10月 / 2023年8月～10月］

項目		単位	2022年8月~10月	2023年8月～10月			評価
			基準値	目標値	実績値	達成率	
二酸化炭素総排出量		(kg-CO_2)	71,106	70,395	91,097	77%	×
	電力	使用量(kWh)	110,290	109,187	158,934	69%	×
	ガソリン	使用量(L)	2,665	2,638	1,159	228%	◎
	軽油	使用量(L)	1,793	1,775	565	314%	◎
	灯油	使用量(L)	450	446	0	達成	◎
	LPG	使用量(kg)	248	246	833	29%	×
産廃排出量		(kg)	33,081	32,750	34,275	96%	△
水使用量			649	643	673	95%	△
化学物質			－	適正管理の実施	充分実施	達成	◎
環境配慮施行の推進			－	環境配慮施工の実施	充分実施	達成	◎

【備考】

1.排出係数については、主の四国電力は、2021年度実績の0.532kg－CO_2/kWh、
その他の中部電力ミライズ、北陸電力、関西電力、中国電力は、2020年度実績を用いている。

2.化学物質はSDSで確認し、使用があれば適正に管理する。

3.環境配慮施工の推進は設備や器具の変更などの要因で結果的に電気効率を良くしたり、
ソフトウェアを駆使した製作で鉄板の発注枚数や残材の削減を行い、
環境に配慮したことを判断基準とする。

4. 評価判定：達成率をｘとしたとき ◎：ｘ≧100 △：ｘ＜100 ×：ｘ≦85

環境経営目標及び実績

期間中の環境経営目標と実績・評価

【評価コメント】

・CO_2総排出量の目標を70,395kg に設定し３ヶ月間活動してきたが、結果は91,097kgとなった。
前年の基準期間よりも生産量が大幅増となり、
工場機械設備（溶接機、クレーン、切断機、孔明機、プレス機等）の使用量の増加により
使用電力量が増えてしまったことや、ガス切断機使用量増加によりLPG使用量増加が
主な原因と考えられる。しかし、生産量が多くても短時間で製作することで
使用電力を抑えることは可能である。
作業工程の見直しでサイクルタイム短縮を図ることでCO_2削減に努める。

・ガソリン、軽油、灯油使用量が大幅に削減された原因は、
工事現場数や遠距離現場の減少が主な原因と考えられる。今後もエコドライブの意識づけや、
タイヤ空気圧の点検、効果的なルート選択等で目標達成に努める。

・ 産廃排出量も目標32,750kgに設定し３か月間活動してきたが、結果は34,275kgとなった。
増加の要因は現場後半に排出される廃棄物の増加が考えられる。
今後も引き続き廃棄物の低減や再資源化活動により廃棄物の削減に取り組む。

・ 水使用量も目標643m^3に設定し３ヶ月間活動してきたが、結果は673m^3となった。
工場でも水を使用するため生産量の増加が主な原因と考えられる。
今後も引き続きポスターや節水シールなどで節水の意識づけを継続し目標達成に努める。

・ 化学物質使用量は、各月の塗料の購入量からSDSを参照し、塗料の化学物質含有量から
各月の化学物質使用量を算出している。
1tを超えた物質は経済産業省と徳島県に届け出を行っている。

・ 環境配慮施工の推進については、溶接器具を変更し、電気効率が向上した。
また、鉄板を注文する際はソフトウェアを駆使して鉄板の発注枚数や残材を減らす工夫をしている。

環境経営計画の取組結果と評価

目標項目：電力使用量の削減

目標達成に対する手段・取組	8月	9月	10月	今後への取組
①節電シールの貼り付けとポスター掲示	○	○	○	継続実施する
②空調温度の適正化（冷房28℃、暖房20℃）	○	○	○	継続実施する
③空調機器のメンテナンス	○	○	○	継続実施する
④不要箇所、不要時間帯の消灯（工場、事務所）	○	○	○	継続実施する
⑤未使用機器の電源OFF（製造設備、OA機器）	○	○	○	継続実施する
⑥照明機器をLEDに交換	△	△	△	削減努力を継続する

評価に対するコメント

エアコンはステッカーを張り設定温度を記入して確認している。
節電ステッカーとポスターで全社員に対して意識づけは浸透しつつある。
工場では、基準年度の同時期（８月から１０月）と比較して生産量が大幅増となり、
切断、溶接等作業も増加したため目標達成できなかったが、
生産量が多くても作業工程の見直し等でサイクルタイム短縮を図ることで、CO_2排出量削減に努める。

評価判定：　○（よくできた）、△（まあまあできた）、×（できなかった）、－（実施が見送られた）

取り組み事例紹介

エアコンの適温設定への呼びかけ

エアコンの点検作業

節電の呼びかけ

環境経営計画の取組結果と評価

目標項目　化石燃料〔ガソリン、軽油、灯油、LPG〕の削減

目標達成に対する手段・取組		8月	9月	10月	今後への取組
社用車	①エコドライブの徹底 (アイドリングストップ、急加速・急停車の防止)	○	○	○	継続実施する
	②タイヤ空気圧のチェック	○	○	○	継続実施する
	③乗り合わせ移動の推進	○	○	○	継続実施する
	④効果的なルート選択	○	○	○	継続実施する
リフト	①始業前点検記録表の記載	○	○	○	継続実施する
	②不必要なアイドリングの禁止	○	○	○	継続実施する
	③タイヤ空気圧のチェック	○	○	○	継続実施する

評価に対するコメント

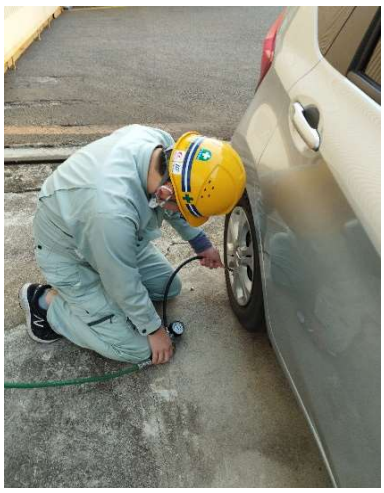
全社員に対してエコドライブの意識づけをして、タイヤ空気圧のチェックなど点検や効果的なルート選択等で燃費向上に努めた。
ガソリン、軽油、灯油は基準年度の同時期（８月から１０月）と比較して、
工事現場数減少等により社用車の移動も減少し目標達成できた。
逆にLPGガス使用料は工場の生産量の増加によりガス切断機使用量が増加し目標達成できなかったが、
溶接機炭酸ガス調整器の点検交換も実施し、生産量が多くても化石燃料使用料の削減に関する活動に
積極的に取り組み今後目標達成に努める。

評価判定：　○（よくできた）、△（まあまあできた）、×（できなかった）、－（実施が見送られた）

取り組み事例紹介

アイドリングストップの呼びかけ

始業後の点検記録



タイヤの空気圧の確認

環境経営計画の取組結果と評価

目標項目　水使用量の削減

目標達成に対する手段・取組	8月	9月	10月	今後への取組
①節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	○	○	継続実施する
②節水の意識を高め、徹底(蛇口をこまめに閉める)	○	○	○	継続実施する
③高圧洗浄機の使用	△	△	△	削減努力を継続する
評価に対するコメント				
節水シールとポスターで全社員に対し節水の意識づけを行ってきた。 工場でも水道を使用するため基準年度の同時期（８月から１０月）と比較して 生産量が大幅増となり目標達成できなかったが、引き続き節水の意識を高める活動に取り組む。				

評価判定：　○（よくできた）、△（まあまあできた）、×（できなかった）、－（実施が見送られた）

取り組み事例紹介

節水の呼びかけ

高圧洗浄機の使用

環境経営計画の取組結果と評価

目標項目　産業廃棄物排出量の削減

目標達成に対する手段・取組	8月	9月	10月	今後への取組
①廃棄物の適正処理の実施	○	○	○	継続実施する
②廃棄物の低減	○	○	○	継続実施する
③廃棄物の再資源化の向上	○	○	○	継続実施する
④分別保管場所管理	○	○	○	継続実施する
評価に対するコメント				
産業廃棄物は、基準年度（８月から１０月）と比較して今年度は工事現場数の増加や、 排出量が多くなる時期（工事の後半）が要因で目標達成できなかったが、 引き続き適正処理の実施やエコキャップ活動の継続を含め 廃棄物の低減や再資源化活動により産業廃棄物の削減に取り組む。				

評価判定：　○（よくできた）、△（まあまあできた）、×（できなかった）、－（実施が見送られた）

取り組み事例紹介

ごみの分別、エコキャップ活動

マニフェストの適正管理

環境経営計画の取組結果と評価

目標項目　化学物質使用量の適正管理

目標達成に対する手段・取組	8月	9月	10月	今後への取組
①安全データーシート（SDS）の確認	○	○	○	継続実施する
②塗料の購入量把握	○	○	○	継続実施する
③PRTR法の届け出	○	○	○	継続実施する
評価に対するコメント				
定期的にＳＤＳの最新版を確認できている。 塗料の使用量の管理、保管は適正にできている。				

評価判定：　○（よくできた）、△（まあまあできた）、×（できなかった）、－（実施が見送られた）

目標項目　環境配慮施工の推進

目標達成に対する手段・取組	8月	9月	10月	今後（次年度）への取組
①作業工程の見直し等で工数の低減を図る	○	○	○	継続実施する
②材料ロスを低減して製作を行う	○	○	○	継続実施する
評価に対するコメント				
手待ち時間を減らし工数の低減を行った。 ソフトを駆使して材料ロスの少ない生産活動を行った。残材も出来るだけ使用している。 溶接器具を変更し、電気効率が上昇した。				

評価判定：　○（よくできた）、△（まあまあできた）、×（できなかった）、－（実施が見送られた）

環境関連法規取りまとめ及び遵守状況

事業活動に適用される環境関連法規は下記の表になります。
環境管理責任者、環境管理事務局の担当部署により、順守できているか確認をさせていただき違反はございませんでした。その他、改善点なども確認されませんでした。
なお、関係当局による違反等の指摘や訴訟はありません。

適用法令	違反の有無
廃棄物処理法	違反なし
資源有効利用促進法	違反なし
建設リサイクル法	違反なし
労働安全衛生法	違反なし
フロン排出抑制法	違反なし
省エネルギー法	違反なし
地球温暖化対策推進法	違反なし
化学物質排出把握管理促進法（PRTR法 改正）	違反なし
消防法	違反なし
騒音規制法	違反なし
振動規制法	違反なし
浄化槽法	違反なし
徳島県環境基本条例	違反なし
徳島県生活環境保全条例	違反なし
徳島県脱炭素社会の実現に向けた気候変動対策推進条例	違反なし
小松島市公害防止条例	違反なし
小松島市における廃棄物の処理及び清掃に関する条例	違反なし

確認年月：2023年11月

代表者による全体評価と見直し指示

環境管理責任者の報告及び改善への提案

【取り組み状況の評価結果】

対象項目	該当項目
環境関連法規制等の遵守状況	遵守されている
問題点の是正処置及び予防処置の状況	実施時期については検討が必要
教育訓練の実施状況	一般・専門教育については実施済み
前回までの代表者の指不事項への対応	該当なし

<改善への提案>　　環境負荷指標の設定及び評価基準の試行、検討の継続

【目標・計画の達成状況】

目標項目	目標 達成状況	計画 実施状況	目標と計画 に対するコメント
二酸化炭素排出量の削減	×	○	削減努力を続けていく
電力使用量の削減	×	○	削減努力を続けていく
化石燃料使用量の削減	○	○	削減努力を続けていく
水使用量の削減	△	○	削減努力を続けていく
産業廃棄物排出量の削減	△	○	削減努力を続けていく
化学物質の適正管理	○	○	今後も継続していく
環境配慮施工の推進	○	○	今後も継続していく

目標：○≧100　△<100　×≦85

計画：○（よくできた）　△（まあまあできた）×（できなかった）ー（実施が見送られた）

【周囲の変化の状況】

対象項目	該当項目
苦情等受付簿より	特になし
環境関連法規制等の動向(法改正等)他	特になし

代表者による全体評価と見直し指示

代表者による見直し・総括

【見直し項目】

対象項目	変更の必要性
環境経営方針	特になし
環境経営目標・環境経営計画	特になし
実施体制	特になし
その他	特になし

【総括】

エコアクション２１への取り組みを開始したことにより、
全従業員の環境負荷の低減に対する意識は確実に向上しております。
これからの企業の事業活動において地球環境問題は当然の社会的責任の一つとして
みなされる中、当社も地球環境の保全に努めるため、環境負荷の低減に向けた
取り組みについて考え、行動し、持続可能社会への貢献を目指します。

代表取締役社長　坂本　孝

その他、会社の取組事例紹介

避難訓練の実施

毎年弊社が参画しています、徳島県鉄鋼協同組合にて避難訓練の実施をしております。
地震が起きた際の避難を想定し取り組んでいます。

アドプトへの参加

徳島県では、県道を清掃する制度である「OURロードアドプト事業」があり、
弊社は参加団体ですので、毎年3回清掃活動をしています。